

第3章 本事業の成果と課題

I 本事業における成果

1 自己評価項目・指標の検討と評価体制の構築

ア) 幼稚園機能と保育園機能を一体化して運営する認定こども園としての 自己評価項目・指標の作成

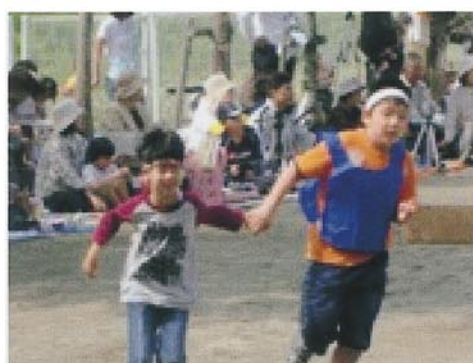
平成20年度の自己評価項目では、子どもに対する「養護」の視点からの配慮が不足している部分があったため、追加訂正が必要でした。乳児期からの発達の連続性および子育て支援に関する項目についても見直しました。

今回当園で作成した自己評価チェックシートは、自己評価「幼稚園における学校評価ガイドライン」(全日私幼連)を基に、「保育士の自己点検・自己評価のためのチェックリスト」(日本保育士会)「保育内容の自己評価のための新チェックリスト」(日本保育協会)を参考にしています。

幼稚園・保育園とも歴史があり文化があります。認定こども園とは発足したばかりの制度ですので、幼稚園機能と保育所機能や地域の子育て支援事業の実施など、それぞれの違いを克服しながら整理する必要があります。認定こども園の目的や特徴(利用する保護者や子どもの状況が多様であること)を踏まえ、一体的で無駄のない評価項目(指標)となるよう、何度も園内委員会・運営委員会・実行委員会で検討し、更に先進園からの協力を得て、評価項目・指標等を設定し自己評価を行い、その結果を基に再度訂正や修正を加えました。

また、一般の教職員と指導的立場では、保育に対する視点も異なりますので、それぞれ別のシートを作り、設問の趣旨を理解しやすいように心がけました。

評価項目で分かったことを「よく出来ていること」「課題と思ったこと」や「具体例」を記述することでより具体的なイメージを持てるようにしました。



評価項目・指標の考え方

① 大項目

当初は、「保育の計画性」「保育者の在り方」「保育者としての資質と能力」「地域の自然や社会との関わり」「研修と研究」の6分野でスタートしましたが、最終的に「保育者の在り方、3歳未満児への対応」、「子育て支援」が加わり8分野となりました。このことにより、認定こども園として、保育特に養護機能並びに子育て支援機能を明示することができました。

② 中項目

大項目を増やしたこともあり、「保育の在りかた」や「地域や自然とのかかわり」等については、中項目ごと移動し整理しました。

③ 小項目

現場の教職員が、質問の意味を理解しやすいよう文章表現を工夫しました。また、一つの項目から具体的な子ども達の姿や保育者の考えが膨らむような設問を心がけました。

(合計：123項目)

④ よく出来ていること思ったこと・これからの課題と思ったこと

一つの大項目をチェックした後、特によく出来ていると思ったことや普段の保育で気配りしていることを書き出してもらいました。

⑤ 具体例

具体的な子どもの姿や教職員の考え方と結び付いていない(ポイントがずれている)例があったため、具体例の欄を最終の自己評価チェックシートに追加しました。

認定こども園にとって配慮が必要な事項をチェックした後、箇条書きで「よく出来ていること」や「課題と思ったこと」を記入しながら、保育の場面・場面を思い起こし(振り返り)ことで、鮮明に記憶され毎日の保育で活かされていくと思います。

